

「ひきがえるバスターズ」会員通信

2022年 第4号

編集・発行：深川ひきがえるバスターズ
Tel.080-2869-3222 (会長：八谷)

総括

総捕獲数は 4,829 匹、繁殖をかない阻止！

生息するヒキガエルは減り始めた。現在、重点駆除池でオタマジャクシの姿なし。

2022年度 繁殖期のヒキガエル駆除の総括表

	夜間の巡回による捕獲				カゴ罠による捕獲	卵とオタマジャクシの除去	繁殖を阻止できたか
	延べ捕獲活動人数	フェンス種類	捕獲総数	♀割合/全個体			
小島(渋谷)池(上下)	A班 145人	ビニール	422 匹	72.5 %	93.1 %	4 匹 (罠8個) 下の水田のオタマも除去	◎
野辺地池		ビニール	183 匹	67.2 %	96.2 %	3 匹 (罠4個) 産まれた卵は全部除去	◎
由野池		ネット	295 匹	74.9 %	90.2 %	— 水田の卵とオタマも除去	◎
国見加賀美池		ネット	1,060 匹	56.5 %	95.7 %	35 匹 (罠4個) 産まれた卵は全部除去	◎
外山池(2池)	B班 128人	ネット	308 匹	74.4 %	—	14 匹 (罠4個) 産まれた卵は全部除去	◎
新橋/池(2池)		ビニール	157 匹	65.6 %	—	4 匹 (罠7) 卵とオタマは見える限り除去	○
水車池		ネット	513 匹	77.2 %	—	12 匹 (罠2個) 産まれた卵は全部除去	◎
菊地(藤沢)池		ネット	159 匹	49.7 %	—	16 匹 (罠2個) 卵は見える限り全部除去	○
向陽岸本池	岸本会員ら 22人	ネット	182 匹	68.7 %	83.0 %	17 匹 (向いの田中池に3個) 産まれた卵は全部除去	◎
グリーンパーク	緑町会員ら 39人	なし	1 匹	100 %	—	— 産卵なし	◎
横井池	横井会員 40人	ネット	6 匹	66.7 %	100 %	— 産卵される前にカエル全部捕獲	◎
稲田貯水池			—			50 匹 (罠6個) オタマ発生したが、除去できず	×
秩父別(4池)			—			59 匹 (罠6個) オタマ発生したが、除去は一部のみ	×
本橋池			—			171 匹 (罠2個) 卵はほぼ全部出した	◎
豊泉高橋池			—			16 匹 (罠4個) 卵とオタマ、かぶり除去した	△
広里5B池			—			41 匹 (罠2個) 卵とオタマは見える限り除去	○
第二菊地池			—			2 匹 (罠2個) 流下したオタマまでたいたい除去	△
他の渋谷池(3池)			—			154 匹 (罠9個) 卵は見える限り全部除去	○

以下、会員以外の池

若林園芸池	18人	ビニール	354 匹	—	98.0 %	2 匹 (罠1個) 産まれた卵は全部除去	◎
ネイバル池	17人	なし	1 匹	100 %	—	— 産卵されず	◎
松村池	28人	なし	290 匹	39.3 %	—	239 匹 (罠8個) 卵とオタマ、かぶり除去	△
野崎池			—			59 匹 (罠3個) 卵とオタマ、ほとんど除去	○

夜間捕獲計 3,931 匹 カゴ罠計 898 匹 総計 4,829匹

夜間：のべ437人の動員で、計3,931匹を捕獲

駆除努力を5年間続けた結果、カエルの出現は年々長引き、最大第4波まで来る異常さだったが、会員の忍耐強い捕獲により、池に侵入し産卵するヒキガエルを最小限に抑えることができた。

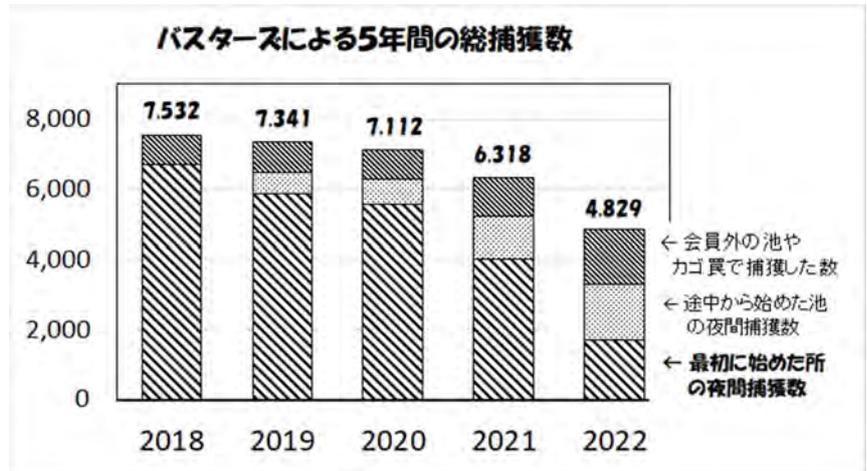
2022年 夜間の巡回による会員の池の毎日の捕獲数

		A班				B班				岸本池	グリーンパーク	横井池	村田池	計
		小島池(上下)	野辺地池	由野池	加賀美池	外山池(大小)	新橋池	水車池	菊地池					
4月21日	木	0	1	0										1
4月22日	金	9	6	3										18
4月23日	土													
4月24日	日													
4月25日	月	0	0	0										0
4月26日	火	0	0	0	0									0
4月27日	水													
4月28日	木													
4月29日	金													
4月30日	土													
5月1日	日													
5月2日	月													
5月3日	火													
5月4日	水													
5月5日	木	1	0			1								2
5月6日	金	2	4	4		8	3	0	0	0	1	2		24
5月7日	土	118	30	32		35	7	3	8	0	0	4		237
5月8日	日	3	0	1		0	0	0	0	0	0	0		4
5月9日	月	0	0	5		0	0	0	0	0	0	0		5
5月10日	火	1	2	74		0	0	0	0	0	0	0		77
5月11日	水	1	1	116	0	2	0	0	0	7	0	0		127
5月12日	木	3	0	26		3	1	9	0	44	0	0		86
5月13日	金	51	27	13	2	10	15	46	3	72	0	0		239
5月14日	土	42	0	3		0	20	169	0	35	0	0		269
5月15日	日	30	0	1	3	2	41	171	0	19	0	0		267
5月16日	月	49	7	7	24	1	50	72	0	2	0	0		212
5月17日	火	71	10	5	233	6	9	16	0	0	0	0		350
5月18日	水	24	37	3	522	25	2	17	2	0	0	0		632
5月19日	木	13	51	1	249	27	8	6	22	0	0	0		377
5月20日	金	4	1	0	18	6	1	4	85	0	0	0		119
5月21日	土	0	1	0	5	2	0	0	33	3	0	0		44
5月22日	日	0	2	1	2	15	0	0	6		0	0		26
5月23日	月	0	1	0	2	0	0	0			0	0		3
5月24日	火	0	0								0	0		0
5月25日	水	0	0								0	0		0
5月26日	木	0	2									0		2
5月27日	金		0			55								55
5月28日	土					34								34
5月29日	日					15								15
5月30日	月					39								39
5月31日	火					20								20
6月1日	水					2								2
6月2日	木					0								0
6月3日	金					0								0
6月4日	土													
合計捕獲数		422	183	295	1,060	308	157	513	159	182	1	6	-	3,286

ヒキガエルの生息数は着実に減少

バスターズが今年捕獲したヒキガエルの総数は4,829匹。初年目(2018年)の7,532匹に比べると64%となり、地域全体の生息密度が減少しつつあることが見てきた(右図)。

そのうち、夜間巡回捕獲の総数(会員外の池は除く)は3,286匹で、初年目6,697匹の49%だった(下表)。

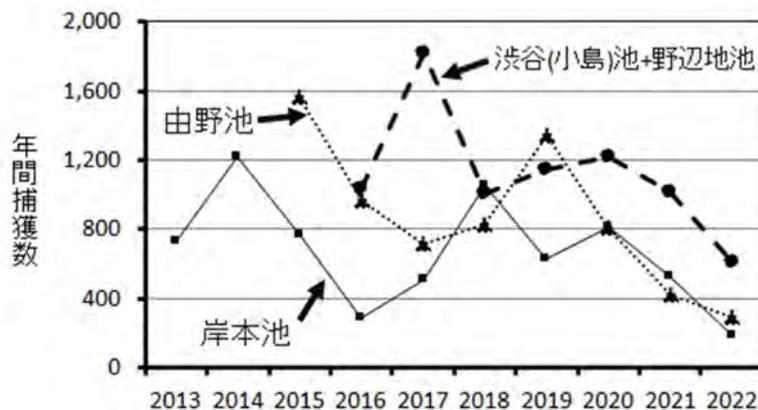


2022年 夜間の巡回による会員の池の捕獲総数

	A班				B班				岸本池	グリーンパーク	横井池	村田池	単純合計	比率	
	小島池(上下)	野辺地池	由野池	加賀美池(昼間含む)	外山池	新橋池	水車池(雉穴含む)	菊地池							
1年目(2018年)	659	350	829	-	1,116	1,294	-	240	1,052	26	-	1,131	6,697匹	100.0	
2年目(2019年)	582	560	1,344	638	906	1,613	-	167	629	19	-	27	6,485匹	96.8	
3年目(2020年)	687	534	811	719	1,708	532	-	195	812	31	-	234	6,263匹	93.5	
4年目(2021年)	586	432	421	1,195	1,432	487	-	124	529	13	12	-	5,231匹	78.1	
5年目の今年(2022年)	合計	422	183	295	1,060	308	157	513	159	182	1	6	-	3,286匹	49.1
	内訳	♀306 ♂116	♀123 ♂59 幼1	♀221 ♂74	♀599 ♂461	♀229 ♂79	♀103 ♂54	♀396 ♂117	♀79 ♂80	♀125 ♂57	♀1	♀4 ♂2	-		

さらにそのうち途中から駆除を始めた池(加賀美池、水車池、横井池)を除いて、最初に始めた所のみ集計すると、初年目6,697匹の25%(つまり4分の1)の1,707匹に減少した。

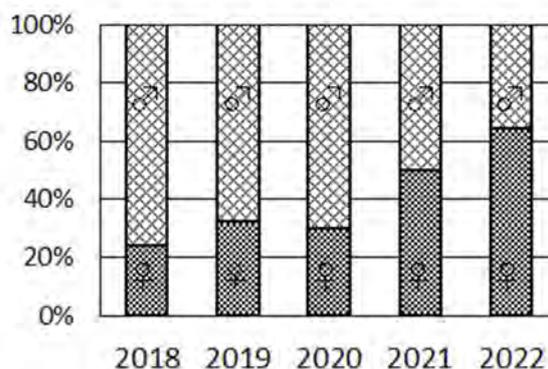
バスターズ開始以前から捕獲をやっている岸本池、由野池、渋谷(小島)池、野辺地池の長期の推移を見ても、今年が一番少ない年となった(下図)。



多発生の「収束」は近い？

ヒキガエルを地域から全くなくする「終息」の達成は大変だが、大発生の「収束」なら近いかも。(新型コロナウイルスでゼロコロナ政策よりウィズコロナ政策のほうが現実的なのと同じ。)

最近の特徴として、異常な雌雄比率がある。初年目 2018 年はメス率 24%、メス対オスが 1 対 3 だったが、メス率は年々上がり、今年(2022)は 64%、メス対オスが 2 対 1 となり、相手のいないメスが大きな腹をかかえてポツンとしている様子が頻繁に見られる異例の状態だった。



雌雄の比率の年次推移

音江以外でも順調に減少中

音江とは環境の違うグリーンパークでも、昨年の 13 匹からわずか 1 匹に減少。市商工労政課と丸山観光協会が駆除を行っている丸山公園ますお沼でも、昨年の 938 匹からその 3 分の 1 の 340 匹となった。

条件の違う各地で期待以上(予想以上)の減少をしていることからみて、今年(2022)は成体ヒキガエルが繁殖を見合わせて来年を待つような気象条件や土壌条件が地域一円に働いていた可能性もあり、駆除努力だけでこれほど減少したと考えるのは早計かもしれません。



なお、今年(2022)のヒキガエル駆除の概略は、市の広報配布時に、「外来生物啓発パンフレット」にて市民にも広くお知らせする予定です。



北海道e-水プロジェクト

本事業は、北海道、北海道コカ・コーラボトリング㈱、(公財)北海道環境財団の三者による協働事業「北海道e-水プロジェクト」の支援を受けて、実施します。